

## 労働生産性の向上しない日本

全事業者の90%を占める中小企業の皆さんも、中小企業を支援する機関の皆さんも、日本の労働生産性が低いと言われて久しいことは、認識されているかと思います。

今日は、日本の労働生産性の国際比較について紹介します。ネタは、日本生産性本部から出ている「労働生産性の国際比較 2022」です。

まず、2021年度の日本の労働生産性の実態を紹介する前に、労働生産性の定義から。労働生産性は、国際比較される場合

$$\text{労働生産性(一人当たり)} = \frac{\text{GDP(付加価値)}}{\text{就業者}}$$

$$\text{労働生産性(時間当たり)} = \frac{\text{GDP(付加価値)}}{\text{就業時間: 就業者} \times \text{労働時間}}$$

と定義されます。

ここで、GDPは購買力平価(PPP)によりドル換算されています。

※購買力平価とは、物価水準などを考慮した各国通貨の実質的な購買力を交換レートで表したものです。

- (1) 日本の時間当たり労働生産性: 49.9\$/時間 (5,006円)  
 OECD加盟国(38か国)中の27位 (第1位は、アイルランドの139.2\$)  
 米国(85.0\$/時間)の6割弱
- (2) 日本の一人当たり労働生産性: 81,510\$/人・年 (818万円)  
 OECD諸国中の29位 (第1位は、アイルランドの226,568\$)  
 欧州では低位である英国(101,405\$ 1018万円)より2割低い。  
 ポーランド、ハンガリー等の東欧諸国やニュージーランド、ポルトガルとほぼ同じ。

※OECD(経済協力開発機構)はヨーロッパ諸国を中心に日・米を含め38ヶ国の先進国が加盟する国際機関です。

	日本の時間当たり労働生産性		日本の一人当たり労働生産性	
1970年	18位	2.9ドル/時間	19位	6,986ドル
1980年	20位	8.6ドル/時間	19位	19,398ドル
1990年	20位	19.1ドル/時間	13位	40,131ドル
2000年	21位	29.0ドル/時間	20位	53,693ドル
2010年	20位	39.8ドル/時間	21位	71,853ドル
2021年	27位	49.9ドル/時間	29位	81,510ドル

日本全体(全産業)で見れば、国際的には先進諸国のなかでは下から数えた方が早い、低生産性の国ということになります。ちなみに、時間当たり生産性と一人当たり生産性ともに1970年代からずっと20位前後で、2021年に27位と29位に低下しています。これはコロナからの回復が日本の場合遅かったことが主要な要因でしょう。

さて、過去に日本の製造業は国際的なお手本と言われていた時代もあります。製造業だけの国際比較をしたデータもあります。(統計の処理から購買力平価による難しいので、為替レートを基準とした換算であることを付記しておきます)

- (3) 日本の製造業の一人当たり労働生産性: 555,848\$/人年 (1011万円)
- OECD諸国中の18位 (第1位は、アイルランドの226,568\$、6045万円)
- 米国(第4位: 159,865\$、1736万円)の約6割。
- フランス、韓国とほぼ同じ。

**製造業の労働生産性水準上位20カ国の変遷**

2000年		2005年		2010年		2015年	
1	日本 86,894	アイルランド 157,215	アイルランド 203,893	アイルランド 448,136			
2	アイルランド 80,651	スイス 125,817	スイス 173,278	スイス 186,108			
3	米国 78,376	ノルウェー 107,454	ノルウェー 135,166	デンマーク 138,389			
4	スイス 78,367	フィンランド 105,588	米国 126,865	米国 137,973			
5	スウェーデン 72,433	スウェーデン 104,541	スウェーデン 126,451	スウェーデン 130,877			
6	フィンランド 70,948	米国 103,874	デンマーク 124,687	ベルギー 122,464			
7	ベルギー 65,037	ベルギー 101,716	ベルギー 120,801	ノルウェー 122,331			
8	ルクセンブルク 61,548	オランダ 100,120	フィンランド 118,551	オランダ 113,417			
9	オランダ 60,665	日本 94,120	日本 117,522	英国 106,479			
10	カナダ 59,808	英国 91,490	オランダ 114,655	オーストリア 105,823			
11	デンマーク 59,517	デンマーク 90,251	オーストリア 108,266	フィンランド 105,543			
12	英国 59,102	オーストリア 88,346	フランス 102,477	ルクセンブルク 105,303			
13	フランス 59,049	ルクセンブルク 86,685	英国 96,792	フランス 102,028			
14	イスラエル 57,149	フランス 85,788	カナダ 96,480	イスラエル 96,834			
15	ノルウェー 56,802	ドイツ 79,041	ドイツ 96,111	カナダ 96,603			
16	オーストリア 56,279	カナダ 76,204	オーストラリア 91,544	ドイツ 94,849			
17	ドイツ 52,401	オーストラリア 68,685	アイスランド 91,145	日本 91,844			
18	アイスランド 47,042	アイスランド 67,254	ルクセンブルク 87,268	アイスランド 90,206			
19	イタリア 45,213	イタリア 63,895	イスラエル 85,538	韓国 85,628			
20	オーストラリア 39,957	イスラエル 61,978	スペイン 76,331	オーストラリア 80,950			

  

2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
1	アイルランド 399,289	アイルランド 426,783	アイルランド 493,478	アイルランド 504,102	アイルランド 555,848				
2	スイス 190,222	スイス 193,866	スイス 201,530	スイス 206,676	スイス 208,378				
3	デンマーク 142,053	デンマーク 149,874	デンマーク 154,651	デンマーク 157,843	デンマーク 161,975				
4	米国 135,705	米国 141,857	米国 149,226	米国 149,936	米国 159,865				
5	スウェーデン 126,818	スウェーデン 127,461	ベルギー 127,437	ベルギー 132,092	ベルギー 128,389				
6	ベルギー 118,486	ベルギー 124,946	スウェーデン 125,794	スウェーデン 124,853	スウェーデン 123,618				
7	ノルウェー 113,096	オランダ 120,379	オランダ 125,439	オランダ 124,364	オランダ 123,401				
8	オランダ 111,990	ノルウェー 119,752	ノルウェー 118,379	フィンランド 114,892	イスラエル 120,907				
9	ルクセンブルク 109,918	フィンランド 116,115	フィンランド 114,675	ノルウェー 113,938	フィンランド 115,345				
10	オーストリア 107,549	オーストリア 110,622	オーストリア 113,956	オーストリア 112,770	ノルウェー 113,496				
11	フィンランド 104,810	フランス 102,983	フランス 105,683	イスラエル 110,515	ルクセンブルク 112,443				
12	英国 99,239	ドイツ 99,671	イスラエル 102,940	ルクセンブルク 105,115	オーストリア 108,973				
13	フランス 98,930	英国 97,102	ルクセンブルク 102,112	フランス 105,063	ドイツ 96,434				
14	ドイツ 95,750	アイスランド 96,884	ドイツ 100,654	ドイツ 99,696	英国 96,368				
15	カナダ 93,581	韓国 95,803	韓国 99,736	英国 99,061	アイスランド 95,858				
16	イスラエル 93,517	日本 95,717	アイスランド 98,875	アイスランド 97,910	韓国 94,137				
17	日本 92,784	ルクセンブルク 93,486	カナダ 98,751	日本 95,255	フランス 93,817				
18	アイスランド 87,539	イスラエル 94,998	英国 96,786	韓国 95,069	日本 92,993				
19	韓国 87,357	カナダ 94,445	日本 96,371	ニュージーランド 82,712	スペイン 74,535				
20	オーストラリア 79,579	ニュージーランド 79,655	ニュージーランド 81,372	イタリア 77,048	イタリア 71,606				

(単位) USD/人 (加重移動平均した為替レートにより換算)

# SKIP

全産業の場合より相対的な順位はよくなっていますが、米国比較では全産業同様 6 割程度と劣位です。近年平均賃金でも韓国に対して劣位とのことですので、2020 年度の順位(韓国は 16 位)比較からも納得できそうです。

製造業の生産性では、2000 年には、日本は第 1 位でした。2000 年ころまでは日本の製造業はまだ輝きがあったと思います。そのころ私は製造業に身を置いていましたが、確かに日本の半導体、製造設備、デバイス、精密機械、化学製品等は今に比べて元気だったように思います。

とはいえ、現在では製造業においても労働生産性の相対的な優位性はなくなってしまったように思えます。

ところで、皆さんがここ数年積極的に応募されている補助金の多くは、労働生産性の向上を目指したものであるにもかかわらず、一向に生産性が向上しているように見えないのはなぜでしょう。日本の企業のほとんどは中小企業です。中小企業の生産性が向上し GDP を押し上げるようにならないとジリ貧になりそうです。

今回は、生産性の向上についての取り組みについて私の考えをお伝えしたいと思います。

(参考)

日本生産性本部\_労働生産性国際比較\_report\_2022